

2018年(H30年)

10月

No. 322

ひとはつるら



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムア-ジアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

「ひとはのみそと和highさん」

ひとはの創設期、俗に無認可作業所といわれていた時代、活動の一環として商品の仕入れ販売をしていました。その頃の志として「ないものねだりはしなみ」と

「あるものを活かす」ということを掲げていました。そんな中で、ひとはらさを活かす商品の開発をめざし、「みそを大豆の生産から製法までできたらいいね」と

夢想し、満得寺住職下間さんに和向武さんを紹介してもらいました。和highさんは笑顔絶えず私の話を聴いてくれましたが最後にやんわりと「味噌はね、生き物なんよ。そう簡単に素人につくれるもんじゃないんだよ」と

諭してくれました。そして代案として「じゃあ、うちがつくってあげるから、販売元をひとはにしたらどうかね」と提案してくれました。「ひとはのみそ」のスタートです。「ひとはのみそ」はおかげで好評も博し、ひとはと応援して下さる方々の架け橋の役割りを果たしてくれることになりました。

和highさんは文化人でもあります。叔父にあたる人が、野に生きる画家和high節二ということもあり、夕々の薫陶を受け、おまけに節二の次男さんを紹介してもらい、節二が生まれ故郷である向原をいかに大切にしてきたかということを知り、

その地に生きる文化を地生文化とよび、自らが自分らしく生きる文化を自生文化とよぶ名称が生まれ育つ機会となりました。

その和highさんが逝ってしまいました。ひとはは、和highさんが残した遺産である地生文化と自生文化をし、かりと受け継ぎ、社会に発信していきたいと

(理事長 寺尾文尚)

第17回ひとはまつり

天気予報でまつり当日は曇行きが怪しいと不安の中、前日にはゲリラ豪雨...夕方、自治会きららの役員をはじめ実行委員数名が集まり、朗白のまつりを実行するか話し合いの場を持ちました。先日の西日本豪雨の影響を考え、近隣に避難勧告が出た場合は止むを得ず中止にしようという決断に。当日の朝、隣町に避難指示が出たため、残念ながらまつりは中止となりました。この日は杭や椅子の返却に餅つき、ホーム食堂ではフランクフルトにやきそばなどが出ました。食材の購入タイムではホームのきららの仲間も、まつりで販売予定だったジュースを購入し賑わいました。

今回中止になったことで後援会の皆さまはじめ、たくさんの方々とお会いする機会がなくなり、笑顔残念に思いました。準備にご協力くださった皆さま、ありがとうございました。(実行委員 竹内宏美)

「子どもがすごい!!」

ひあくらぶの子どもたちと一緒に、クッキングの活動でホットケーキ作りをしました。卵わりに挑戦した3歳のゆいとくん。見事!上手にパッカーンと成功しました。上手にわれた事で自信をつけたゆいとくんはそれ以降、ホットケーキ作りやお好み焼きなど卵わりをする時は「ゆいとにまごわろ」と自ら立候補するようになりました。できた!の喜びが自信に繋がった事がとても嬉しかった出来事でした。

(ひあくらぶ 光川美希)

「はじめての夏休み」

ワクワクドキドキの長い休みの始まり。活動では、週2回のプールと週1回の体操教室。少しは体が引き締まるかと思っただけですが、昼食作りなども週3回あり...

そうめん流しでは、そうめん30束を湯がき、各自おにぎり1個、フランクフルト1本を用意し、子ども11人大人7人で完食! 見事な食べっぷり!! 育ち盛りの皆さんと同じように食べていると、思うようには... (笑) しっかり食べて体を動かし、みんなこの暑さも乗り越えました。

(くらぶほん 鈴川容子)



